公益財団法人
京都府国際センター
Kyoto Prefectural International Center
NEWS
Vol.81
2017年2月 冬号

留学生の支援

国際人財ラウンド・テーブル

第2回「外国人留学生・企業交流会」開催

平成28年12月16日（金）、留学生のキャリア形成を支援する「外国人留学生・企業交流会」を開催し、約4時間にわたり40人の外国人留学生と33人の企業の方が交流しました。交流会にスタッフとして参加した京都府国際交流員マーク・ガラットさんに印象を聞きました。

マークさんも日本に住む若者として日本企業、京都企業に関心がおありだと思います。今回の交流会についてどう思いましたか？参加した留学生にとって企業を知る良い機会になったでしょうか？

私は学校卒業後の初めての仕事がいまの国際交流員です。感じるのは、日本の企業はプロセス重視で、西洋の企業は結果重視であるという相違点で、留学生は、このイベントを通して日本の企業がどのような人材を求めているのかを（新しいことにやる気を持って挑戦するなど）知ることができたと思います。留学生の母国に拠点があったり、成長が見込める企業は人気が高いと思います。

初めに参加者が全員集まり、参加企業から順次自己紹介をいただきました。

この交流会の良いところとは何でしょうか？

就職活動をするには、どんな企業を目指すかなど準備をしなければなりません。まだ何も考えていない留学生にとっては、各ブースを訪れ、日本の企業の人事担当者と会話することができて、就職活動を考える良いきっかけになったと思います。日本の就職活動の習慣は独特ですので、就職活動について考え始めることはとても大切だと思います。

続いて、参加企業がブースに分かれ、留学生が希望の企業ブースを訪問。1回の訪問時間は20分間。それを7回（セッション）繰り返しました。

日本で新卒の留学生が企業に就職する場合、日本のシステムや慣習に従う必要があり苦労が多いと思います。留学生が日本企業に就職することについてマークさんはどう感じていますか？

日本の企業や就職活動の過程は、西洋とはずいぶん異なります。例えば、日本にはマニュアルがあり、顧客の対応にはこのように対応するようにとルールがあります。お客様の満足度が大変重視されるのです。西洋の企業にとっては結果が第一です。日本の企業で働くことは、そのような日本の企業独特の方法で、顧客満足度の高いサービスについて学ぶなど、外国籍の方や留学生にとって、自分のスキルを高めるいい機会になると思います。また、私自身英語でしゃべるときと、日本語でしゃべるときは、聞き手に対する態度が異なります。このようなマルチカルチャーな対応を学ぶことができるので、大変いいことだと思います。

多文化共生の推進　「あすのKyoto・地域創生フェスタ」で情報発信

様々な文化的背景を持つ人達が共に生きる「多文化共生」について情報発信するため、平成28年11月23日（水･祝）、京都府立植物園にて開催された「あすのKyoto・地域創生フェスタ」（主催：きょうと地域創生府民会議）に出展しました。

当日は晴時々曇りの肌寒い一日でしたが、京都府名誉友好大使10名の協力を得て、効果的な活動を行うことができました。内容はクイズ形式で、参加者には抽選でNPOやNGO団体の景品も用意し、900名を超える方々にクイズに答えていただきました。

フェスタ当日のクイズの内容です。皆さんも挑戦してみてください。

Q1 日本では、外国人の観光客が増えていますが、日本に長く定住する外国人は増えていますか?

❶ 増えている
❷ 変わらない
❸ 減っている

Q2 日本に定住する外国人には、日本語が話せない外国人もたくさんいます。そのような外国人に、生活に必要な日本語を学んでもらうことが必要です。そのことに取り組んでいる国（政府）の組織はどこでしょう。

❶ 観光庁（国土交通省）
❷ 文化庁（文部科学省）
❸ 消防庁（総務省）

Q3 京都府国際センターでは、文化庁から委託を受けて、府内各地に日本語教室ができるよう、各地の国際化協会をサポートしています。この6年間に5つの市町村で日本語教室が新しくできました。これらの日本語教室で教えているのは、誰でしょう。

❶ 大学の先生
❷ 日本語学校の先生
❸ ボランティア
（日本語指導のことを学んだ地域の住民）

Q4 JICAは開発途上国に支援をしています。現在世界には日本を含めて196か国ありますが、そのうち、「開発途上国」と呼ばれる国は何か国あるでしょうか?

❶ 約30か国
❷ 約80か国
❸ 約150か国

京都府名誉友好大使が出身国・地域のことを出題するクイズもありました。

◆日本の在留外国人数は、230万人を超えています。政府による中国帰国者、難民の受入れ、留学生の招致、日系南米人の来日促進、アジア諸国からの研修生・実習生の受入れ等が拡大し、国際結婚、永住資格の取得等により定住化が進んでいます。このような外国人を一時的なゲストではなく、日本社会の中で共に生活をしていく構成員と捉えるのが多文化共生の考え方です。

◆外国人住民が日本で生活する際、まずつき当たるのが「言葉の壁」。日々の生活、学校・病院・警察でのやりとり、災害時などで、必要な情報サービスを得られないことがあります。日本語学習者は19万人で過去最高となる一方、日本語指導者はボランティアが6割を占めています。「生活に必要な日本語」の学習は、ボランティアを中心とする日本語教室が担っています。

答　Q1. ❶ 増えている
Q2. ❷ 文化庁
Q3. ❸ ボランティア
Q4. ❸ 約150か国

災害時支援　「災害多言語支援センターの設置運営訓練」実施

京都府内市町村国際化協会「災害時外国人支援ワーキング会議」について

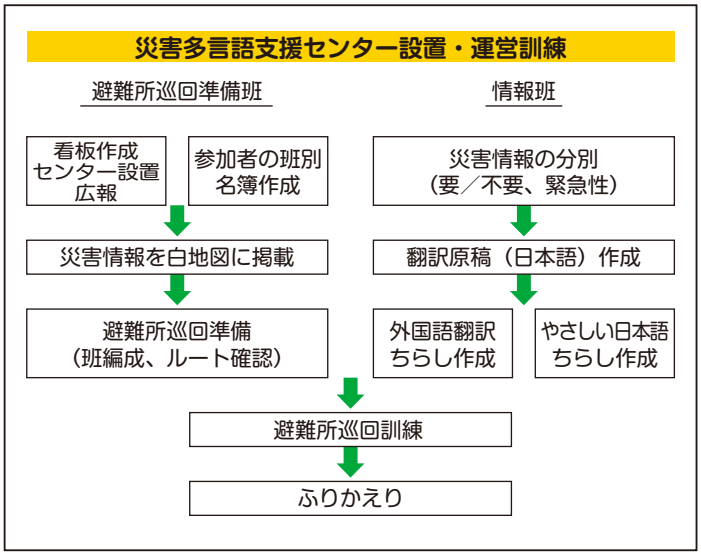
災害が起きたとき、重要な情報が届かないことが多い外国人被災者を支援する取組を府内全体でどのように進めて行くか検討するため、27年度から府内の市町村国際化協会等とともにワーキング会議を開催しています。

この会議では、毎年一つの市町村をモデル地域に選び、必要と思われる取組を話し合うとともに、研修や訓練を行うことで連携体制づくりを進めています。27年度は府内最北で日本海に面する京丹後市を、また、28年度は南部に位置し、けいはんな学研都市がある精華町をモデル地域に選び、訓練を実施しました。今後、いつ府内のどこで災害が起きても、府全体で連携して迅速に対応できるよう、この会議を継続し、こうした訓練や研修等への取組をさらに充実させます。

「災害多言語支援センター設置・運営訓練（精華町）」実施

＊11月26日（土）事前研修・準備（会場：精華町立むくのきセンター）
＊12月　3日（土）訓練（会場：けいはんなプラザ）

今年度のモデル地域である精華町で、訓練を実施しました。11月26日は、精華町の国際化協会（せいかグローバルネット）の役員や会員の方を中心に集まり、まず精華町の災害担当課から、町内のどこでどんな被害が起こりうるのか詳細に話を聞きました。続いて、全員で町内の災害関連機関や各国総領事館、入国管理局等の連絡先や難読地名リストを作成するとともに、避難所の位置や昼夜で異なる外国人が住む地区などを白地図に転記しました。せいかグローバルネットの会員は、日本語教室や交流事業等で普段から外国人と関わっているため、数多くの情報を白地図に書き込むことができました。これらは、災害時にどの地区の避難所を訪ねればよいか大いに参考となるため、日常からの取組の大切さを再確認しました。



12月3日（土）は、府内他地域の国際化協会や市町村、ボランティアも精華町に参集し、26日に作成したリストや白地図を使って、災害時外国人支援作業を実施しました。

訓練の概要は、以下(1)～(3)のとおりです。

(1)災害情報の中から外国人に必要なものを選り分け、外国語や“やさしい日本語”に翻訳し、ちらしを作成（情報班）

(2)避難所に滞在する外国人へ情報を届けるため、どの避難所でどの言語が必要か情報収集し、それに対応した巡回班を編成するとともに、避難所の位置や行き方を確認（避難所巡回準備班）

(3)避難所に滞在する外国人へ声を掛け、困ったことがないか相談に乗る模擬訓練（全員）

今回は、昨年よりスムーズに訓練を行うことができたと感じましたが、より多くの方に作業に慣れていただき、より効率的な手法も検討するため、今後も繰り返し訓練を実施していきます。

モデルマニュアルについて

京都府は南北に長く、山間地域も広いため、大規模災害が起こると道路等の交通インフラが寸断され、外部からの支援の到着までに日数がかかると考えられることから、被災地域は外からの支援を待つだけでなく、自ら速やかに外国人被災者支援に着手する準備をしておくことが必要です。それには、平素からそれぞれの市町村で「災害時外国人支援マニュアル」を作成して作業内容や手順、体制や連絡先等をまとめ訓練を行っておくと、災害時に慌てることなく支援を行うことができ、外部からの支援者やボランティアにも適切な指示を与えることができます。当センターでは、各市町村域で作成するマニュアルの参考となるよう「モデルマニュアル（第１次案）」を作成しました。

今後とも、想定する災害の範囲や対応内容等を充実させるため、ワーキング会議での検討内容や訓練を通じた検証結果などを随時反映させていくこととしています。

☞http://www.kpic.or.jp/shichoson/bosai/manual.html

留学生の支援　「留学生と企業のミニ交流会」開催

平成28年度の開催状況

第1回　7月28日（金）株式会社西山酒造場
第2回　8月12日（金）株式会社白鳩
第3回　9月16日（金）高野竹工株式会社
第4回　9月23日（金）株式会社長栄
第5回 10月　5日（水）株式会社大月真珠
第6回　1月16日（月）高野竹工株式会社

外国人留学生等支援員の谷川拓巳さんは、留学生の相談窓口を担当しておられますが、就職についてはどのような相談が多いでしょうか？

谷川支援員：平成20年までは、国や両親の期待を背負って来日する国費留学生（文部科学省の奨学生）の割合が高く、企業も採用に積極的ではなかったことから選択肢が限られている中でも、高い志をもって就職していく留学生が多かったように思います。最近では、悩みごとも大きく変わり、また、日本で就職して数年経過し、社内で悩みを抱えたり将来のキャリア形成に限界を感じ転職を希望するOB・OGも多く当センターに再訪する事例が増えています。

ミニ交流会はまだ例の少ない催しだと思いますが、どのような特徴と狙いがありますか？

谷川支援員：大規模なセミナーでは、残念ながらあまり就職には繋がらない場合が多いのです。大規模なために企業と留学生との相互理解のための交流が十分ではなく、また、参加企業すべてが留学生の雇用に積極的であるわけではありません。ミニ交流会であれば留学生の雇用に本当に前向きな企業がやってきて、就職したいと考えている留学生と交流することができます。

ミニ交流会に参加した企業や留学生の反応はいかがでしょうか？

谷川支援員：ミニ交流会は職業を紹介しているわけではありませんが、国際センターでの継続的なカウンセリングに連動させながら、留学生雇用に積極的な企業とじっくり交流できますので、とても好評です。留学生のキャリア観の向上はもとより、企業の事業内容や採用ポリシーを知る上でとても役に立つとの感想をもらいます。実際に採用に至った例もあり、留学生にとって貴重な機会になっています。

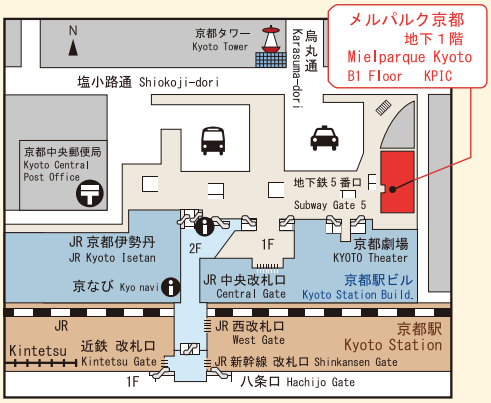
京都府国際センターからのお知らせ

無　料　要申込

京都府国際センター設立20周年記念フォーラム

日　時：平成29年3月25日（土）15:00～18:00
場　所：ホテル ルビノ京都堀川
（京都市上京区東堀川通下長者町
バス停「堀川下長者町」下車徒歩2分）
定　員：150名
申込み：FAX、Eメールまたはホームページからお申込みください。
＊電話では、お申込みいただけません。
➡ 詳しくは、http://www.kpic.or.jp/

［記念演奏&トーク］ Rハパフォーマンス
ウベ・ワルター 氏
［基調講演］ 講師／京都教育大学教授　浜田 麻里 氏
［パネル・ディスカッション］
タデウシュ・アダム・オジュグ 氏
（京都府名誉友好大使、株式会社ニッポ代表）
浜田 麻里 氏（京都教育大学教授）
増田 麻美子 氏（文化庁文化部国語課日本語教育専門職）
近藤 徳明（京都府国際センター事業課長）



公益財団法人 京都府国際センター
〒600-8216 京都市下京区東塩小路町676-13 メルパルク京都B1F（JR京都駅前 北口東側（京都劇場側））
Tel：075-342-5000
Fax：075-342-5050　E-mail: main@kpic.or.jp
http://www.kpic.or.jp/
facebook http://www.facebook.com/kpic.kyoto

開館時間／午前10時～午後6時
休館日／毎月第2・第4火曜日、祝日、年末年始（12/29 ～ 1/3）

公益財団法人 京都府国際センター NEWS Winter 2017 平成29年冬号 第81号
編集・発行／公益財団法人 京都府国際センター　Kyoto Prefectural International Center

PRINTED WITH SOY INK